

小松電機産業

韓国企業に技術無償提供

シャッター現地生産で普及を図る

高速で自動開閉するシート式シャッターの製造・販売で本年度の全国ニュービジネス大賞を受けた小松電機産業(島根県八雲村東岩坂、小松昭夫社長)は

十四日、松江市内のホテルで開いた受賞祝賀会の席上、韓国企業に製造ノウハウを無償提供すると発表した。

同社が技術供与することにしたのはソウル市に本社を置き、安養(アンニャン)の工場で冷凍機の冷却板を製造している東友FA社(秋成泰代表)。東友は、

小松電機産業がシートシャッターの韓国輸出を始めた一昨年十月から韓国内の総代理店として販売に当たり、これまでに二百台を売り上げた。

ただ、三七・三八%という高い関税率もあって、一万七千台を設置した日本と比べ、普及率はいまひとつ。夏冬の寒暖の差の激しい大陸的な気候から、作業環境

の販売とも東友が当たり、小松電機は、巻き上げモーターなどを組み立て、部品出荷していく。韓国での完成品の商標は、日本と同名の「門番」で売っていく。無償提供の目録は、ニュービジネス大賞受賞祝賀会の席上、小松社長から秋代表に手渡された。



シートシャッターの製造技術、設計図の無償提供の目録を秋代表(左)に渡す小松社長(右) 松江市千鳥町、ホテル一畑

の改善や省エネ効果を期待する潜在的な需要はかなりのあるものとみられており、現地生産で普及を図ろうと判断。提携の形としては、かねてから小松社長が構想を温めていた「友好関係で結ばれた企業ネットワークによる世界展開」に沿って、製造技術、設計図とも無償提供することにした。

計画では、小松電機産業の社員を韓国に派遣し、技術指導を行い、早ければ五月、六月に東友での生産をスタートさせる。全製造工程、